

ヤリイカの漁獲に関するアンケート調査結果 (要旨)

Result of Questionnaires about Fisheries of *Loligo bleekeri*
(Abstract)

伊藤欣吾(青森県水産試験場)

Kingo Ito (Aomori Pref. Fish. Exp. Stn.)

[目的]

ヤリイカは朝鮮半島から日本近海にかけての沿岸域に広く分布し、漁業対象種として利用されている。しかし、ヤリイカの漁獲統計に関しては、国の漁業生産統計年報で「その他イカ類」に区分されているのをはじめ、各都道府県の統計資料においてもヤリイカとして集計されているものは少ない。そこで、全国の水産試験研究機関を対象にヤリイカの漁獲実態に関するアンケート調査を実施した。

[方法]

海面を有する46の都道府県の水産試験研究機関に対し、図1に示すアンケート用紙を2001年6月25日に送付し、全機関より回答を得て、その結果をもとにヤリイカの漁獲実態について解析した。解析は、54海域に区分した。

[結果及び考察]

ヤリイカは我が国において、沖縄、瀬戸内海、北海道東部海域を除く広い海域で漁獲されるといふ全体像がはじめて明らかになった(図2)。近年(1998~2000年)における我が国のヤリイカの年間漁獲量は8,186~9,794トンと推定され、そのうち、青森県が3,213トンで最も多く全国の約35%を占め、次いで北海道全海域が839トンで全国の約10%を占め、宮城県、愛知県の順となっていた。

ヤリイカ漁業の最盛期は1月~3月の海域が多かった。また、ヤリイカは底曳網と定置網による漁獲が多くを占め、釣りや棒受網によるヤリイカだけを狙った漁業も成立していた。これらの他に、ヤリイカが漁獲されるほとんどの海域において、産卵していることが示唆された。また、ヤリイカの漁獲変動が気候のレジームシフトと符合している可能性が示唆された。

